

# 本校の自立活動研究経過

<p>平成22年度～23年度 実践研究</p>	<p>平成22年度～25年度 講演会・研究発表会</p>
<p>和歌山県特別支援学校教育専門性向上事業「特別支援学校研究指定」を受け、自立活動の指導の在り方について、特に「時間における指導」を中心として授業実践を行った。</p>	<p>平成25年に研究発表会を開催し、『自立活動の時間における指導について～PDCAサイクルを活用した授業改善を重ねて～』というテーマのもと、4年間行ってきた研究成果を発表した。</p>
<p>平成24年度～25年度 実践研究</p>	<p>平成22年度～25年度 成果物</p>
<p>自立活動の研究を継続し、意見を活発に交わすことのできる授業協議の場を作りだすことをサブテーマとして授業改善の方法を模索し研究を重ねた。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・リーフレット『「なぜ」からはじまる自立活動』のリーフレット作成</li><li>・自立活動の学習指導案様式作成 個人用 グループ用</li></ul>
<p>平成26年度 実践研究</p>	<p>平成26年度 成果物</p>
<p>個別の指導計画に焦点を当て、「日常の生活場面で生きてくる個別の指導計画に基づいた自立活動の指導を行う」をキーワードに、より実践に即した個別の指導計画を書くことを目的として研究を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自立活動の学習指導案様式に「イメージする姿（1年後）」の欄を加えた</li></ul>
<p>平成27年度 実践研究</p>	
<p>『人権が尊重される学校づくり～子どもの人権が尊重される授業作りと教職員の人権意識の向上～』という研究テーマのもと、「自立活動の授業は、子ども一人一人の実態把握から開始するものであり、自立活動の授業改善をしていくことは、一人一人を大切にすることに繋がり、ひいては人権が尊重される授業に繋がる」という研究仮説を立て、自立活動の授業改善に取り組み、研究仮説を実証することができた。</p>	
<p>平成28年度～29年度 実践研究</p>	<p>平成28年度～29年度 講演会・研究発表会</p>

全国学校体育研究大会和歌山大会の研究指定校を受け、『わかった、できた→もっとやりたい!』と思える授業づくり～自立活動の視点から一人ひとりを見つめて～』という研究テーマのもと、体育の授業に参加することや指導目標を達成することが難しい児童生徒に対して、自立活動の視点を取り入れた授業改善を行い、授業づくりを行っていく上では「児童生徒の実態把握」や「個への支援・手立て」が重要であること、即ち「自立活動視点」が必要かつ重要であることを確認した。

平成28年のプレ発表会で、関西国際大学教育学部教育福祉学科 中尾繁樹教授による『主体性を育む授業づくり～実態把握を活かした指導の観点～』というテーマでご講演をいただいた。

平成29年には中尾教授に『わかった、できた→もっとやりたい!』と思える授業づくり～自立活動の視点から一人ひとりを見つめて～』というテーマで2年間の研究総括とご講演をいただいた。

**平成30年度  
実践研究**

**平成30年度  
講演会**

小・中・高各学部の知的障害学級から1事例、肢体不自由重複学級全体から1事例の計4事例の自立活動の授業について話し合いを重ね、授業改善を行った。

和歌山大学大学院教育学研究科 武田鉄郎教授に授業を見ていただき、各授業者に対して講評とアドバイスをいただいた。全体研修として『自立活動における「授業づくり」の視座 —教科指導との違い—』というテーマでご講演をいただいた。

**平成31年度（令和元年度）  
実践研究**

**平成31年度（令和元年度）  
講演会・研究報告会**

小・中・高各学部と愛徳分教室をいくつかのグループに分け、各グループ1事例の自立活動の授業について年間通して授業改善を行った。

「自立活動は子どもが日常生活や学習場面で困っていることを改善・克服するための学習であり、子どもたち一人一人の将来像を考えながら、目標や指導内容を計画し、取り組んでいくことが大切である」ことを確認した。

和歌山大学大学院教育学研究科 武田鉄郎教授に各学部から1事例、肢体不自由重複学級全体から1事例、愛徳分教室から1事例の計5事例の授業を見ていただき、各授業者に対して講評とアドバイスをいただいた。全体研修として『自立活動の基礎』というテーマでご講演をいただいた。また校内報告会にて報告を行った。

**令和2年度  
新型コロナウイルス感染大流行のため自立活動に関する研究は行われなかった**

## 令和3年度 講演会

コロナ禍のため、和歌山大学大学院教育学研究科 武田鉄郎教授の『自立活動の基本的理解～児童生徒が身につけた「学習上又は生活上の困難さを軽減する」ための知識、技能、態度及び習慣をいかに汎化させるか～』というテーマでご講演いただいた動画を視聴する研修を行った。動画視聴後「クラスで汎化の視点でどういう取組をしているか」「自立活動の指導をしている中で難しいと思うことはどんなことか」を話し合い、日頃の自立活動の指導について振り返った。

## 令和4年度 実践研究

研究目標を「教員一人一人が、児童生徒の生活を見据えて、指導目標や指導内容、活動内容を考えて実践し、自立活動でつけた力を生活の中で実現できる。そして、そのつけた力を様々な学校教育活動の場面で児童生徒や教師自身が実感できる。」と定め、小学部9グループ、中学部4グループ、高等部7グループ、愛徳分教室1グループの計21グループに分け、年間9回の研究（個別の指導計画の作成、指導案の作成、2回の授業の改善等）を行った。

## 令和4年度 講演会・研究報告会

和歌山大学大学院教育学研究科 武田鉄郎教授に各学部知的障害学級から1事例ずつ、肢体不自由重複学級全体から1事例の計4事例の授業の動画を見ていただき各授業者に対して講評とアドバイスをいただいた。全体研修として『自立活動の基本的理解～児童生徒が身につけた「学習上又は生活上の困難さを軽減する」ための知識、技能、態度及び習慣をいかに日常生活に【般化(汎化)generalization】していくか、教師の指導力を問う～』というテーマでご講演をいただいた。また校内報告会を行った。